

興議館の“こころ”を受け継ぐ

式辞

校長 柿崎悦子

新入生の皆さん、入学おめでとう。私たち教職員は、今日を心待ちにしております。校地内の桜も満開で、一緒に祝ってくれているようです。(途中略)

今、臨時の学校休業という事態に遭遇しているわけですが、これから皆さんの三年間の高校生活が始まります。その皆さんの本校での学びにあたり、心に留めて頂きたいことは、自ら求めて学ぶ姿勢を確立し、その姿勢を貫いてほしいということです。様々なことに目をむけ、興味をもって積極的に学ぶことです。それは、決して独りよがりな学びではなく、クラスメイトと関わり、他を認め、共に学び、成長していく学びです。学校だけではなく、社会の様々な人々とも関わり、自分を磨いていく学びです。

その社会は今、ソサエティ5・0に移行しています。皆さんが生きているこれからの社会は、AIによる自動運転など、自律判断・調整化する機械の実用化が進み、5Gのビッグデータに基づく最適化された生活が実現し、労働力が人工知能やロボットに替わっていきます。現在のウィルスの拡大がその流れのスピードを加速させ



興議館だより

Yonezawa Kojokan High School

令和2年11月24日発行
第48号

山形県立
米沢興議館高等学校

〒992-1443
山形県米沢市大字笹野1101
TEL 0238-38-4741
FAX 0238-38-2531
<http://www.yonezawakojokan-h.ed.jp/>

てもいます。農耕社会、工業社会、情報社会と段階的に発展してきた社会が、世界規模で急速に変わり、私たちはどう生きるかを問われ、人間性がより求められる時代となるでしょう。ソサエティ5・0の世界は、人間の社会です。決してAIに線られる世界ではありません。その社会を創っていくのは皆さんです。人との関係性の中で、感性を磨き、他を思いやり、考え実行し、失敗しても知恵を出しあいながら支えあい、豊かな社会を創るために、この学校で学びましょう。

本校での三年間の学びを通し、基礎となる学力をしっかりと身に付け、卒業後は、高い志を持って、予測不可能な社会であっても、その未知なる世界に果敢に挑戦し、しなやかな思考で新たな価値を創造し、豊かな社会づくりに貢献することが、興議館で学ぶ者の使命であり誇りです。

本校の校歌三番に、「人みな命をあがめ 我が力が誠 世のために尽くさん」とあります。正に、他を尊重し、自己を鍛え、世に貢献しようとするこの精神こそ、興議館の精神であり、連綿として受け継がれてきた興議館の「こころ」です。高い志をもって様々な事にチャレンジし、自らを磨き、新たな次代を切り拓くリーダーとなられることを期待します。

やっとなることができた今日というスタートの日を忘れることなく、明日からの一日一日が、自らの夢実現に向けて、着実な歩みになることを期待し、式辞とします。(式辞より一部抜粋)



新入生宣誓
一年二組 佐藤

駿(米沢六中出身)

私はこの興議館高校で、勉強はもちろんのこと課外活動にも力を入れたいと思っています。残念ながら、そういった活動の規模は今年大幅に縮小されています。しかし、本来の活動の代わりとして、めったに受けることのできない講義がおこなわれるなど、貴重な機会が設けられています。積極的にそういった機会に参加し、自分の知識や視野を広げたいです。高校生活では、これからの社会の変化に対応できるように力を素晴らしい仲間と切磋琢磨しながらつけていきたいです。

2020こつち総文
自然科学部門「研究奨励賞」受賞

全国の舞台上で(高文連掲載記事から)

三年一組 牛久保 舞(米沢一中出身)

今年の全国高等学校総合文化祭はWeb上での開催となりました。Web開催は史上初めてのことだったので、様々な苦労がありました。

私は山形大学工学部の長峰研究室の協力のもと、研究を行ってきました。大学が閉鎖されたことで、メールでやりとりしながら研究や発表準備を進めなければならず、コミュニケーションの不便さを感じました。やりかけの実験が中途半端で終わってしまったのが残念です。このような状況の中でも「研究奨励賞」をいただくことができ、とてもうれしく感じています。私は研究や発表を通して、知的探究の意義と楽しさを知ることができました。将来はこれを活かしてより社会に貢献できるような研究を行いたいと思います。



科学の甲子園全国大会
最高賞の「優秀賞」受賞

科学の甲子園に出場して

三年二組 安部 央人(米沢四中出身)

今年の科学の甲子園全国大会は、コロナウイルスの影響で筆記競技・実験競技は行えず、実技競技のみとなりました。その実技競技も研究の成果をプレゼンテーションシートとデモンストレーション動画を作成することで審査となりました。全国大会が通常開催されなかったことは残念なことでしたが、できる限りのことはやろうという事で、休校中もオンラインで集まり研究を重ね、期限ギリギリまで改善を繰り返しました。結果私たちは研究の成果を認められ、優秀校に選出されました。決め手は独創性やプレゼンシートの情報の明確さが高く評価されたということだったので、興譲館SSH探究活動で学んできた成果が発揮できたのかなと思います。

優秀賞をいただいて、何より自分たちのしてきたことが認められたということが嬉しかったです。伝える力というのは本当に大切なことだという事を今回の結果から改めて学べました。科学の甲子園に参加して、もちろん科学の知識は多くのことを学べましたが、それ以上にたくさんのお話を聞けました。このような機会を得られたことを本当に感謝しています。



SSH全国生徒研究発表会 出場

挑戦の積み重ね

三年二組 小嶋 華(米沢四中出身)

私の研究班では、「気化したリモネンの植物病原菌に対する抗真菌効果」という題で研究を行いました。リモネンは、柑橘皮に含まれている揮発性の精油です。私達は、リモネンを気化させた容器中で、三種類のかびの完全な繁殖抑制に成功しました。失敗しても落ち込まず、根気よくデータをまとめられる班でした。このようなメンバーで研究活動が出来たことを嬉しく思います。私達の活動には、最後には使わなかった実験結果がいくつもあり、その全ての反省と改善が最終発表に詰まっています。成果を認めて頂き、スパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会という全国の舞台へ出場させて頂けたことを心から感謝しています。

私の研究班では、「気化したリモネンの植物病原菌に対する抗真菌効果」という題で研究を行いました。リモネンは、柑橘皮に含まれている揮発性の精油です。私達は、リモネンを気化させた容器中で、三種類のかびの完全な繁殖抑制に成功しました。失敗しても落ち込まず、根気よくデータをまとめられる班でした。このようなメンバーで研究活動が出来たことを嬉しく思います。私達の活動には、最後には使わなかった実験結果がいくつもあり、その全ての反省と改善が最終発表に詰まっています。成果を認めて頂き、スパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会という全国の舞台へ出場させて頂けたことを心から感謝しています。



スパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会

国際探究フォーラム

国際理解フォーラムについて

三年一組 佐藤 ちな (赤湯中出身)

探究フォーラムの中に組み込まれた国際理解フォーラムでは、今まで異文化理解の授業の中で作成してきた発表資料をもとにした発表と、その内容をシステム思考を用いて更に整理する作業を行いました。

異文化理解の授業の中では、「新型コロナウイルス感染症によって可視化された世界・社会の課題について、教師の問いへ英語で納得解を語る」を目標として、それぞれの班が関心を持った問いについて、現状や改善策を話し合い、それを資料にまとめました。どの問いも答えは無数にあり、現状との向き合い方次第で大きく変わってくる内容でした。

国際理解フォーラムで資料の発表をグループで行い、そのあと発表で出された内容から一つ選び、思考ツールを用いて、本質的な原因を探ったり更なる改善策を見つける作業をしました。今までのシステム、新しいシステムでどんなメリットや対価があるかも話し合い、出てきた結果を発表したのですが、私は話し合いに積極的に参加できず、意欲的な活動ができませんでした。事後活動もあるのでそこで私も問いについて深掘りできるよう、システム思考を積極的に用いていきたいです。



サマースクール・オープンスクール

探究的な学びの経験

二年一組 佐藤 杏奈 (米沢四中出身)

今年は新型コロナウイルスの影響で様々な行事が例年とは違う形での開催となりました。オープンスクールもその一つです。このような状況下でも、来てくれた中学生に探究的な学びを体験してもらえよう、短い時間の中で入念に準備を重ねてきました。分野の異なる十二のグループがそれぞれコンセプトを持って探究的な学びを体験してもらった探Qラボも無事成功に終わりました。探Qラボの準備段階から当日の活動、振り返りを通して自分達が探究的な学びを促す立場を経験した事で、普段自分達が行っている形とは違う形での学び方を客観的に見つめ直す事が出来る貴重な機会となりました。



FS (フュージョンサイエンス)

米沢の未来

一年三組 中川 綾菜 (米沢四中出身)

私は、FS A期で「都市デザインと工学」、B期では「地域振興とデータサイエンス」に参加しています。都市デザインと地域振興は行うことは違いますが、最終的に住みやすい街づくり、地域を活性化させることに繋がります。活動のなかで米沢市に住むうえでの問題点や、観光資源をどうPRしたら観光客が増えるのかなどについて考えました。

活動を通して、米沢には魅力的なものがたくさんあり、それを生かす方法はたくさんあると知りました。そして、知っていく中で、私はもっとたくさんの人に米沢の魅力を知ってもらいたい、米沢のために自分ができることはないかと思うようになりました。

今回の活動で考えたこと、思ったことを、将来に生かしたいと思います。



困難の中でも最善を

三年二組 川崎 優希

(赤湯中出身)

今年の興讓祭は新型コロナウィルスの影響を受けて、例年とは全く違う形の開催となりました。

感染を防ぎつつ出来る限り全校生が参加できるように興讓祭を作りたい、という思いから興讓館生全員が協力しながら準備を行いました。当日は様々なハプニングに見舞われたものの、それらを含めて全校生徒が楽しむことができた最高の一日となりました。

今年の興讓祭が成功したのは興讓館生、そして先生方の全員が協力し合ったからであると私は確信しています。これからの生活の中でも興讓祭で得たものを活かし、他人と協力し挑戦を恐れず成功に向かって最善を尽くしていきたいと思っています。



工夫がキラリ
興讓祭
~はかいこうせん~



部活動

**限られた中で
何が出来るか**

三年五組 情野 太陽
(米沢二中出身)

今年、新型コロナウィルス感染症の影響により、夏の甲子園大会が中止となりました。しかし、野球部は代替大会として山形県高等野球大会2020に出場させて頂きました。例年より遅いスタート、今までと違う制限のある練習など個人でもチームでも課題は山積みでしたが、私たちは「今自分でできる事、やるべき事はなにか。」を常に考えながら生活しました。大会では限られた状況の中でもできることを一つずつ積み重ね、最後まで自分達らしいプレーをする事ができました。例年には無い良い経験ができたかと前向きに捉え、今後の生活にも活かしていきたいと思っています。

